

重要文化財【桑野遺跡出土品】春季特別展示

ー 石製装身具の多彩性 ー

あわら市郷土歴史資料館
特別展示室

平成 24 年 9 月 6 日、[重要文化財／考古資料]に指定された「福井県桑野遺跡出土品」は、桑野遺跡から出土した縄文時代早期末から前期前葉を主とする出土品一括です。

指定品は、^{けつじょうのみかざり} 玦状耳飾などの^{せきせいそうしんぐ} 石製装身具を主体とする石器・石製品、合計 85 点から構成（他に附として水晶原石 1 点加わる）されています。出土品の多くは原位置に近い状態で出土、特に玦状耳飾は素材・製作技法などを対で揃えた事例が多くみられます。それらは縄文時代の人々の装身や^{そうそうざいれい} 葬送儀礼を復元する上で重要であり、わが国を代表する出土品であるとともに、環日本海域に於ける縄文文化の特質と交流を解明する資料として、その学術的価値は極めて高いものと評価されました。

平成 27 年度の展示では、様々なテーマを設定し、それに応じて主として出土した^{どこう} 土壙単位で行ってきましたが、今回の春季特別展示では、もっと単純化して個体ごとに桑野遺跡から出土した石製装身具に様々なバリエーションがみられることを紹介します。

《玦状耳飾》

まず、玦状耳飾についてですが、出土した全 71 点の中から大きさ、重さ、厚さの面から特に対照的なものを抽出してみました。

【大きさ比較】

大きさの面から、最も大きいものは上段左側に展示した 18 号土壙から出土した KW 48（整理番号、以下全て同様・第 1 図左外）で、一部を欠失しますが、長さ・幅共に 6.8 cm を測ります。その次に大きいものが上段右側に展示



第 1 図 玦状耳飾の大きさ比較（左外：KW 48（最大）、左中：KW 20（最少・未展示）、右外：KW 68、右中：KW 58

の 24 号土壙から出土した KW 68（第 1 図右外）で、三つに割れていますが長さ・幅共に 6.7 cm を測ります。一方、最も小さいものは、今回展示していませんが、7 号

土壙から出土したKW20（第1図左中）で、長さ・幅は共に1.7cmと極小です。上段中央に展示の20号土壙から出土したKW58（第1図右中）は、長さ1.9cm、幅2.2cmを測り、KW20の次に小さいものです。

【重さ比較】

重さの面では、最も重いものは、今回展示していませんが、14号土壙から出土したKW35で、重量は56.2グラムあります。

中段左側に展示している26号土壙から出土したKW74（第2図左）で、二番目に重く、重量は55.9グラムを測ります。最も軽いものは、先に最も小さいものとして挙げ



第2図 玦状耳飾の重さ比較（左：KW74、右：KW1）

げた7号土壙から出土したKW20（第1図左中）で、重量は3.2グラムしかありません。二番目に軽いものは、上段中央に展示の20号土壙から出土したKW58（第1図右中）で重量は4.9グラムです。中段右側に展示の2号土壙から出土したKW1（第2図右）は三番目に軽く、重量は5.6グラムで、最も重いものとは実に10倍以上の開きがあります。

【厚さ比較】

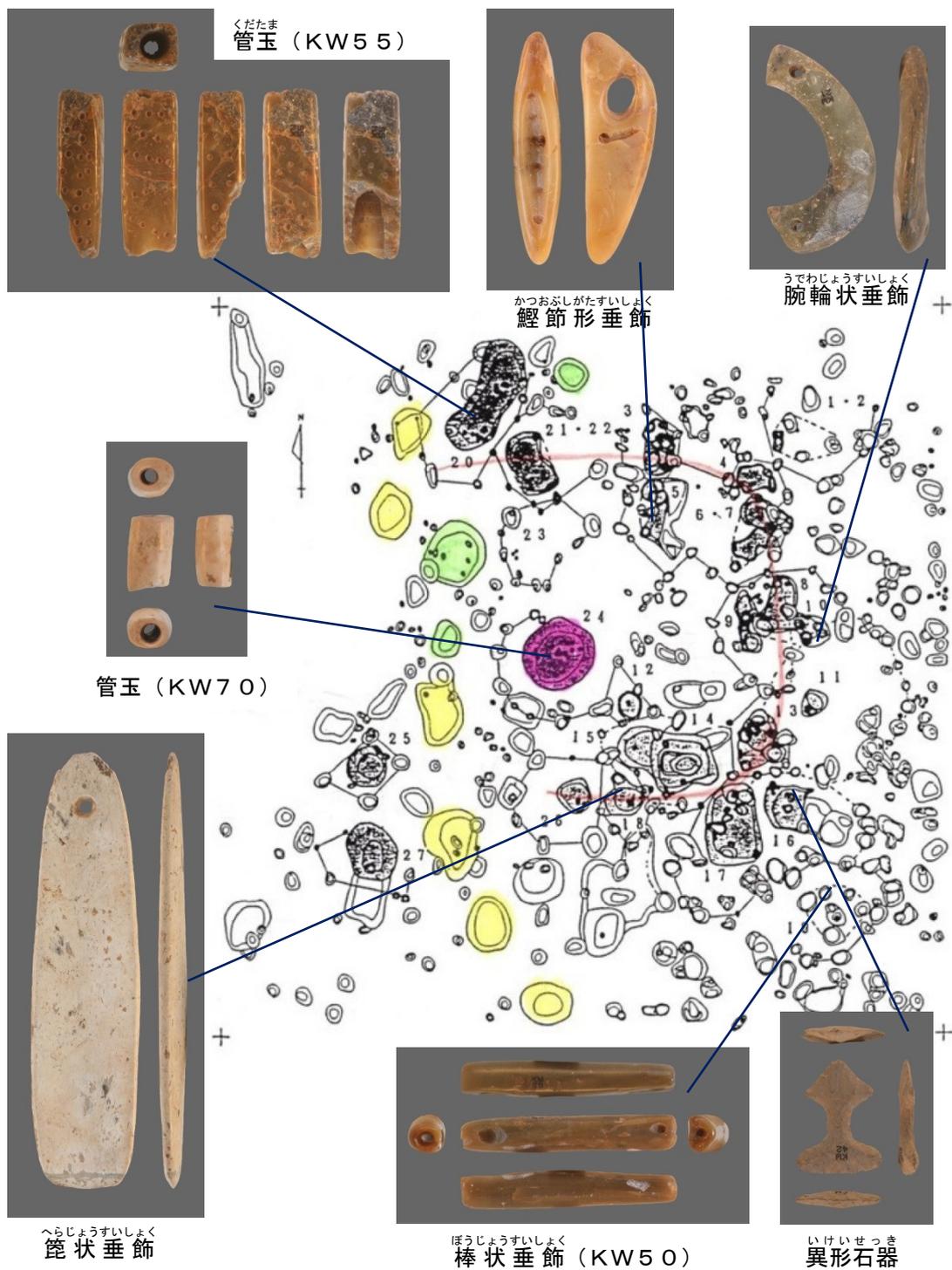
厚さの面では、最も分厚いものが下段中央に展示の26号土壙から出土したKW75（第3図中）で、厚さ1.5cmを測ります。反対に薄いものは下段左側に展示の20号土壙から出土したKW59（第3図左）、下段右側展示の24号土壙から出土したKW68（第3図右）で共に0.6cmです。厚さでは、大きさ、重さほどの開きはみられません。それでも2.5倍の差があります。特に大きさ自体はそれ程違いがないにもかかわらず、これほど厚さに差があるのは、単なる形態差が石材、時期等の違いによるものか残念なことに明らかではありません。



第3図 玦状耳飾の厚さ比較（左：KW59（最薄）、中：KW75（最厚）、右：KW68（最薄）

前記のように、玦状耳飾りに大きさ、重さ、厚さの面でかなりの差があることは、ご覧いただければ一目瞭然かと思えます。また、使用している石材により、その色調も異なります。石材の違いや大きさ、重さ、厚さの差が、使用者の性別、年齢等から起因するのかなど、今後も研究を進めていく必要があります。

块状耳飾以外の石製装身具類は、別に展示しました。下記の第4図は、石製装身具が集中して出土した地区の平面図で24号遺構を中心として、石製装身具が出土した土壌が環状に配置されている様相が看取できるかと思います。



第4図 石製装身具含有土壌密集部平面図兼出土位置図（黒塗り：検出土壌、数字：土壌No.）

《多彩な装身具》

腕輪状垂飾（KW21）は、10号土壙から出土し、用途は明らかではありませんが、両端が穿孔され、破面が研ぎ込まれている形態から名付けたものです。

異形石器（KW42）は、16号土壙から出土したもので、形態的には石鏃に類似しますが、一緒に出土した小型块状耳飾一对との位置関係から、頭部飾りの一種を想定しています。

篋状垂飾（KW49）は、18号土壙から块状耳飾と折り重なるように出土しましたが、その用途については不明です。長さ13.2cm、幅3.3cmと、篋状垂飾でも最も大きなものです。上部と思われる細い方に有孔があるので、吊り下げて使用していたと考えられます。横断面が窪む特異な形状は、あたかも「靴べら」に類似しますが、本遺跡から出土した篋状垂飾はどれも同様な形状を示し、日本列島にはあまり類例がなく特色とも言えます。

棒状垂飾（KW50）は、19号土壙から単独で出土したもので、両端とも斜めに穿孔が施されていました。

鯉節形垂飾（KW11）は、5号土壙から出土したもので、有孔の上、凹部に刺突紋が施されています。同遺構から出土している块状耳飾よりも高い位置から出土していることから、頭部飾りの可能性が考慮されています。

20号土壙から出土した管玉（KW55）は、断面は方形を呈しており、端部を刻み、側面には刺突紋が施されていました。複数対の块状耳飾や篋状垂飾2らと共伴していました。

管玉（KW70）は、24号土壙中央底面最深部から出土しました。

以上、桑野遺跡から出土した石製装身具の多彩性の一端について紹介しました。

（橋本）

<出展品>

- | | | | |
|--------|----|---------|----|
| ・ 块状耳飾 | 8点 | ・ 腕輪状垂飾 | 1点 |
| | | ・ 異形石器 | 1点 |
| | | ・ 篋状垂飾 | 1点 |
| | | ・ 棒状垂飾 | 1点 |
| | | ・ 鯉節形垂飾 | 1点 |
| | | ・ 管玉 | 2点 |

重要文化財【桑野遺跡出土品】春季特別展示 — 石製装身具の多彩性 —

展示期間 : 平成28年4月26日(火曜日)～6月12日(日曜日)

あわらし市郷土歴史資料館

919-0632 福井県あわらし市春宮二丁目14-1 金津本陣 IKOSSA2 階

Tel : 0776-73-5158 Fax : 0776-73-1038